

巻 頭 言

南九州大学人間発達学部
学 部 長 宮 内 孝

2010年4月にスタートした子ども教育学科は、人間発達に関わる専門家として地域の核となり「人の育ちと地域の育ち」を支援し活躍できる専門家「新・せんせい」の養成を目指していました。その後、2021年4月からは、「新・せんせい」をバージョンアップした「子どもスペシャリスト」の養成を目指すことにしました。「新・せんせい」の概念を再認識した上で、単に教育や保育の専門家になるだけではなく、地域共同体の再生の核として活躍できる人材を「子どもスペシャリスト」と名付けました。

その後「子どもスペシャリスト」養成を目的に、教育プログラムなどの整備に取り組みながら、教育・研究に努めています。このプログラムのなかでも、大学と地域が力を合わせて学生教育に取り組む“協働”、大学と地域とを学生が行き来することで実践的な学びを可能にする“往還”を組み込んだ教育プログラムは本学科の特徴のひとつです。

この協働”と“往還”を具現化したのが、「3000時間体験プログラム」です。学生たちは、このプログラムを活用して様々な場所で、子どもにふれながら、また保護者、保育士や教員そして地域の大人たちに育てられています。このような活動を通して、“せんせい”に必要な能力だけではなく、一般企業でも求められている「コミュニケーション能力」や「タフさ」をも身に付けています。それは、一般企業に就職し、そこで活躍している学生が増えていることからもうかがえます。

また、昨年度からは人口減少、保育士不足、不登校の増加などの社会的な課題解決を目指して、“ナナメプロジェクト”に取り組んでいます。子どもたちとナナメの関係にある学生が、子どもかかわりながら、あるいは高校生とともに地域課題を解決する取り組みです。先述した3000時間体験プログラムともリンクさせ、多種多様な活動に取り組んでいます。その活動の一環として、都城市の適応教室の分室として“青空ラボ”が本キャンパスに設置されました。子ども教育学科の学生で構成する「不登校支援チーム“なないろ”」が、この青空ラボの運営やラボに通う子どもへの支援をしています。このような行政と大学とが協働で不登校支援を実施するのは日本初の取り組みです。

今後も、本地域における解決しなければならない課題について、都城市・三股町・曾於市などの地域と連携を図りながら課題解決に取り組んでいきます。そして、この地域にある大学ではなく、この地域になくてはならない大学となるように努力してまいります。

本書には、日々の教育実践や研究の成果が報告されている。関係者の方々の忌憚のないご意見やご感想を頂けると幸いです。